

# The International Criminal Tribunal for Iraq

## イラク国際戦犯民衆法廷 実行委員会ニュース

'05  
**7**  
月号

発行  
2005年 7月 10日

<http://www.icti-e.com>

### WTI・イラク世界民衆法廷

### 6/24-26 イスタンブールで最高法廷開催



3日間の法廷をふまえ「良心の陪審員による予備的宣言」を発表

#### イスタンブールの青空

#### トプカピ宮殿の感動

トプカピ宮殿はイスタンブール旧市街のど真ん中にある。すぐ隣が赤いモスクの「アヤソフィア」、その向こうは「ブルーモスク」。信仰の中心地

もあり、観光のメッカでもある。そのトプカピ宮殿旧造幣局の建物で、イラク世界民衆法廷イスタンブール法廷は開かれた。

六月二四日から二六日の三日間、朝から夕方までぎゅちりとタイトに詰め込まれたスケジュールをこなすため、現地スタッフは目の回るような忙しさで飛び回っていた。

「検事」に相当する「民衆の代理人」は、次々と入れ替わり立ち代り、米英による侵略と戦争犯罪の数々を列挙し、弾劾し、徹底追及を試みる。ヴェトナム反戦の理論家として知られた国際法学の泰斗リチャード・フォーク（サンタバーバラ大学教授）の冒頭陳述に続いて、地元トルコを代表して国際人権法のトルグット・タルンハンリ（ビルギ大学教授）が批判の矢の手をあげる。

日本ではおなじみのニルファ・バグワット（弁護士）の迫力に満ちたアシ演説は激しく、爽やかでもある。「女性世界法廷」主催者として活躍してきたコリーヌ・クマール（アジア女性人権評議会）の囁くような詩的な告発に聞き入る傍聴人。世界社会フォーラム

呼びかけ人のフランソワ・ウタ（リュール大学名誉教授）の遠望の効いた演説がきらめくと、女性国際戦犯法廷判事でもあったクリスチヌ・チンキン（ロンドン大学教授）の鮮やかな理論構築が続く。ICTIで招請したハリア・ザンガナ（作家）、デニス・ハリデイ（元国連イラク担当）らも続々と登壇した。

日本を代表した猿田佐世・稲森幸一・田場暁生（ICTI検事団）のチームワークとパフォーマン스는爽やかな印象を与えた（善た）。

二六日夜、すべての証言と告発が終了した後、「良心の陪審員」を代表してアルンダティ・ロイがまとめの発言を行なった。時に軽い冗談もはさみながら、一つひとつ積み上げていく知的に洗練されたW発言は傍聴人に快い感銘を与えた。

世界各地の反戦平和運動家の共同作業を見事に凝縮させたイスタンブール公判の感動は、トプカピ宮殿から再び世界へと波及していくだろう。

ICTI/WTI/WTI/広島・日本代表団は総勢一四名だったが、さらに一名が現地で合流したので一五名となった。イスタンブールの感動を持ち帰ったメンバーを各地の報告会に呼んでいただきたい。

最後になりますが、ICTI/WTI/広島・日本代表団を支えていただいた皆さんに厚くお礼申し上げます。

発行：イラク国際戦犯民衆法廷実行委員会

〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町2-21-301 なかま共同事務所

E-mail:houtei@icti-e.com

(Tel/Fax) 03-3267-0144